

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170503627), 法人名 (株式会社 ケーサポート), 事業所名 (グループホーム コケモモの家), 所在地 (札幌市豊平区西岡4条3丁目8番5号), 自己評価作成日 (令和4年1月13日), 評価結果市町村受理日 (令和4年4月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様が得意な事を活かし、ホーム内で役割を持つことで生活の場であることを感じていただけるよう支援しています。入居者同士、なじみの関係づくりができるよう職員が意図的に関わっています。ホーム職員だけではなく町内会やご家族との交流を図ることで入居者の方が安心して生活できる環境づくりに努めています。入居者の皆様には職員も環境の一部と捉え、お一人おひとりの意向の把握や状況・状態に合わせた対応で入居者の皆様が主体となり生活できるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyosyoCd=0170503627-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170503627-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年1月28日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、豊平区の西岡地区に位置し、周囲には大型ショッピングセンターやコンビニ、病院等が立ち並び、交通の便も良く、住宅地だが生活の利便性が高い環境下に立地している。母体法人は、市内と近郊を含め4か所でグループホームを運営しており、定例で管理者会議が行われ、事例検討や制度改正、厚労省通知の情報共有等、本社機能を活かした質の高い連携を図っている。運営推進会議の開催状況は、前年度からのコロナ禍により職員のみでの開催、書面での報告となっているが、通例では家族、地域関係者、行政の参加を得て定例に開催し、運営状況や日常の様子、ヒヤリハット・事故等の詳細を説明して、事業の透明化に努めている。利用者家族は、事業所のコロナ感染防止対策の徹底や職員の真摯な対応、季節感ある食材を使った手作りの食事等、配慮ある支援が好評を得ており、高い満足度を示している。今後も変わらぬ尽力が望まれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍で朝礼での唱和は中止していますが、各フロアに掲示し理念の共有を図り、意識して支援しています。	法人理念の他、事業所の独自理念が定められており、管理者を中心に申し送りや会議の場で、理念に沿った考え方を共有出来ているか、定期的に確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年度もコロナ禍の影響で町内会行事等は中止になっていたため参加出来ませんでしたが、ホーム周辺では積極的に挨拶をしています。また周年記念など、町内会の方達への挨拶の機会としています。	通例では町内会、地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、事業所の周年記念のタイミングで近況報告する等、地域町内会との関係維持に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られたご家族や、電話での問い合わせ時に相談事にお答えしたり、ホームでの支援内容についてお話しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況や運営についても報告をしています。議事録は各フロアに提示し、議事録もご家族の他町内会の方へも送付しています。	通例では、家族、地域代表、行政が参加し、定例で開催している。運営状況や現状の問題点が論議されており、メンバーから意見を聞き取り、運営に活かしている。現在は相互の自粛により、書面での開催となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	提出書類については電話での報告を行ってから送付をすることで協力関係を築けるよう取り組んでいます。	市担当者や包括支援センターからは、定例の運営推進会議での運営状況報告の他、メール・電話での相談や随時指導、アドバイスを受け、運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各フロア事務室内に掲示をしています。身体拘束廃止委員会の開催や定期的な研修・ミーティング等とおして身体拘束をしないケアの実践をしています。	身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開催している。委員会では、現状の検証を行い、内容について職員間で共有している。不適切なケアと思われる事は、その場で注意し合えるよう、取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の実施の他、認知症の理解を深めることで利用者の状態を把握したり、言葉使いに配慮し不適切なケアにならないよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍の影響で外部研修の参加はできませんでしたが、ご家族から相談があった場合は必要な情報を提供し活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、文書と口頭で説明を行っています。都度質問や疑問点がないか確認をしながら行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中からご本人の思いをくみ取るよう努めています。ご家族の来訪時や電話連絡の際は普段の生活の様子を報告しながら意見、要望を聞いています。	通例では、主に来訪時に家族の意見、要望を聞き取り、運営に反映している。現在はホーム便りの他、電話、窓越しでの面会、外部評価時の家族アンケート等、多様な情報交換の場を設定し、意見を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアミーティングやリーダー会議などで職員が意見や提案できる場を設けています。必要な案件は本社会議で報告をし業務改善や働きやすい環境づくりに努めています。	フロアミーティングやリーダー会議の場で、職員が自由に意見を述べる機会があり、介護姿勢や業務の改善に活かしている。管理者は、随時相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は本社会議で各フロアの人事や各職員の勤務状況について報告を受けています。問題点や課題点については都度対応し、働きやすい職場の環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加した職員には、研修手当や受講料の助成をしています。外部の研修へ参加した職員や定期研修担当職員などでフロアミーティングで他職員へ内容を報告してもらい知識を深めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区会議やケア連絡会などの勉強会や交流会には職員にも参加してもらいますが、今年度もコロナ禍の影響で難しかったです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期は不安のないように寄り添い、会話や表情から困りごとがないか思いをくみ取り傾聴するよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時や契約時に困り事や不安がないか聞いています。入居されてからも、ご家族の来訪時には、日ごろの報告をすることで要望や相談ごとが話しやすい環境づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の問い合わせや見学時にお伺いした困りごとや不安な事に対して、現在のサービス支援だけではなくその方に必要と思われるサービスの情報もお伝えするようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる事、できない事の見極めを行い、調理や清掃などの家事を一緒に行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話時にはご本人の現状を報告し、ご家族とともに必要な支援について考えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍でなじみの場所への外出はできませんでしたが、電話や手紙などで関係が途切れないよう支援しています。	コロナ禍により現在は外出が困難となっているが、電話の取り次ぎやホーム便りを発行し、近況を伝える事で、それまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとり一人の性格や感情の変化を理解しながら利用者同士がかかわりあえるよう支援しています。調理や衣類たたみ等、入居者同志が関わり合い達成感を共有できるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も希望があれば、広報の送付をさせていただきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行動や表情、会話の中からご本人の思いをくみ取るよう支援しています。ご家族からの情報も大切に、本人本位の支援ができるよう努めています。	会話や表情から思いや希望を把握し、職員間で検討している。家族からも情報を得て、入居時の基本情報に加え、定期的にアセスメントを行い、情報共有している。	本人から最終段階に関して、具体的な思いを聞き取り、記録に取り組んでいる。進展に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族ご本人にもお伺いしています。普段の会話や行動からも情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や状態、経過観察した情報を個別の記録や日報などに記入する事で職員間で情報を共有し現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の表情や口調から楽しい事、嬉しい事の把握に努めています。ご家族からの意見・要望の他、主治医や相談員などの意見も参考にし介護計画書へ反映しています。	職員相互で日々のモニタリング結果を検証し、本人・家族の要望や主治医・相談員の意見を考慮しながら、介護計画を作成している。また、随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態、経過観察した情報を個別の記録や日報などに記入する事で職員間で情報を共有し現状の把握に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の様子の他ケアプランのサービス内容について記入するよう努めています。記録の内容を参考にプランの見直しや評価に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため外出や来訪者との接触が難しくしたが、訪問理美容や訪問歯科などつながりが持てるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、ご家族・ご本人が希望する主治医に決定しています。良好な関係を築けるよう情報提供に努め健康管理を行っています。また、ご本人やご家族の希望に沿って主治医の変更などの相談にも乗っています。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。地域の医療機関との連携があり、個人記録を作成し、家族、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護STの看護師が来ています。介護職員は看護師に情報を伝えやすいように申し送り表を作成しています。そのほか気になったことがある場合は都度相談をし適切な対応ができるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な支援について継続ができるよう伝えていきます。早期退院できるようご家族とも連携を図り退院に向けての調整を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や見学時にはホームでできる対応や医療機関、ご家族との連携についてご説明させていただいています。重度化が予測される場合は早い段階でご家族と終末期ケアについて相談させていただき、意向や要望を確認し、最善の対応ができるよう努めています。	契約時に事業所の指針を説明し、状況に合わせて意向の再確認を行っている。協力医療機関、家族と共に終末期を支えるための話し合いを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フロアミーティングで心肺蘇生のシュミレーションを行っています。急変や事故発生時についてもフローチャートやマニュアルですぐに確認できるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時には入居者を安全に避難できるように訓練を行っています。火災時には通報時に町内会の代表の方にも連絡がいくようになっていきます。	火災・津波等の自然災害を想定した避難訓練を定例で実施している。地域町内会、法人の他事業所との協力体制も含め、備蓄品の確認を行い、不意の災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や体調面支援内容については配慮に欠けた言葉使いや態度にならないよう配慮しています。	利用者の立場に立ち、プライバシー、羞恥心に配慮している。日々のトイレ誘導や入浴時の対応等も見直ししながら、尊厳を損なう事のないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意図的に質問をしたり、選択できる場面作りをするよう心掛けています。思いを表現しづらい入居者の方にも声をかけ表情などで自己決定できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合の支援にならないように、普段の言動や表情から一日をどのように過ごしたいのか希望や思いをくみ取るよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限りご本人が着替えを選べるよう支援しています。意思表示が苦手な方は、好みの色やデザインなどご家族からの情報や昔の写真などからも推察しおしゃれを楽しめるよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方達にとってなじみの食材や得意メニューを献立に取り入れています。好き嫌いがある方には好みのものを提供しています。それぞれの得意な事ができるよう調理や後片付けの声掛けを行い参加して頂いています。	季節や馴染みの食材を取り入れ、嗜好を聞き取り、献立を作成している。調理の過程や下膳、テーブル拭き等、体調や体力に合わせ、お手伝いをお願いして、食事が楽しみある時間となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分などの摂取量を記録しており栄養の摂取に努めています。嚥下や口腔内の状態に合わせてキザミ食やミキサー食など形態を変えて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや見守りを行い口腔ケアを実施しています。ご自身で磨けない方はお手伝いさせていただいており、口腔内の状況に合わせて訪問歯科や歯科衛生士による口腔ケアも取り入れています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を記録してそれぞれの排泄パターンの把握に努めています。表情や言動からも排泄のサインを見逃さないようにすることでトイレでの排泄ができるよう支援しています。	個々のタイミングを時間や仕草で把握し、トイレへの誘導を行っている。排泄時の羞恥心に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況に合わせて、牛乳やオリゴ糖を使用した飲料の提供やテレビ体操など運動する機会づくりで便秘対策の支援をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にはご本人の予定をお聞きして入りたい時間に入浴できるよう支援しています。体調に合わせて清拭や足浴等を行い清潔の保持に努めています。	毎日お湯はりをし、個々の希望、状態に合った入浴を心掛けている。無理強いすることなく、時間や担当者に変化をつけ、楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は居室やリビングソファなど、ひとり一人過ごしやすい場所で休息を取られています。就寝時には、居室の温度や明るさなどに配慮し良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方されたときは薬説明書の確認をしています。服薬後の経過で変化に気付けるよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や会話などからそれぞれの入居者の得意な事を知り、ホーム内での家事活動に取り込んでいます。役割を持った生活ができるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院や墓参りなどご家族にも協力をしてもらい出かけられるよう支援していましたが現在コロナ禍の影響で外出は制限されています。	外出行事は自粛しているが、気候の良い時期は周辺の散策をしている。軽い運動での気分転換や心身の機能維持に努めており、コロナ禍での制限が最小限となるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理・使用できる方には行っていただいています。お小遣い帳の記入をして頂くことで不安にならないよう配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙のやり取りができるよう一緒に文章を考えたり、携帯電話所持の方には都度使用方法を伝え自由にご家族と連絡ができるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマスツリーやひな人形など季節ごとの飾り付けも入居者の方達と行っています。室温や温度管理も都度状況に合わせて行っています。	利用者が好きな場所で過ごし、それを見守ることで、自宅のような居心地のよい環境を作り出している。リビングの飾りは、入居者の作品や、季節感に配慮されたものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを配置しています。一人になりたいときや気の合う方同士でお話できるような環境づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は使い慣れた家具や写真を持ってきていただいています。ご本人の状態に合わせて家具の配置を変えるなどして安心して過ごせるようにしています。	家族の協力を得て、本人の日常に馴染みある備品や家具、家族写真等を飾り、心身の状況に合わせた居心地の良い生活環境となるよう、支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示をわかり易くしたり、食器棚の収納場所など表示する事で意欲的に家事参加できるよう工夫しています。		